

滝上町外国語指導助手

# Jordy's コーナー



冬休みの間はいつも、どこかへ出かけています。クリスマスには故郷のアメリカへ帰り、家族旅行に行きます。今年は趣向が違い、妹のジェシーが滝上町に来ていました。

私たち姉妹はテキサスから来たのでほとんど雪を見たことがありません。北海道ほど寒い所にも来たことはなく、千歳につい

てすぐ体験したことのない寒さに驚いていました。家についた後は少しくつろいで、すぐに友人の家へ向かいました。おいしい食事と飲物をたくさん振る舞っていただき、紅白を見て、いろいろな話をしました。妹は初めての体験が沢山出来てうれしいと言っていたし、滝上の友人と過ごした時間はとても楽しかったです。0時直前くらいには家の近くのお寺へ行きました。そこでは除夜の鐘を聞き、お坊さんに出会って一緒に飲んだり話したりをしました。とても気さくな方で妹も会えてよかったと言っていました。



～山彦の滝にて～

新年の朝は滝上神社へ初詣出に行きました。時間が早かったのかとても静かで綺麗でした。おみくじを引いてみると私が中吉、妹はなんと大吉を引いていました。その後はスノーシューを履いて山彦の滝へ行きました。山彦の滝はとても美しく凍っていて、言葉が出ませんでした。妹は圧巻の風景をたくさんの写真に収めていました。町内に戻り、茶道の先生の家でお茶の御手前や夕食をごちそうになりました、妹も着物を着せてもらったり、茶道を体験したりとても楽しんでいました。その後も北海道の観光を楽しんで妹は帰って行きました。いつもとは少し違うとても素敵な年末年始でした。

↓郷土館収蔵の投網



↓投網を娯楽として使用する様子※



## おぐり アイ 小栗EYE



郷土館管理人小栗さんに収蔵品の紹介や、それらにまつわるエピソードなどを紹介していただきます！

### 「投網」

投網は漁網の一つで「かぶせ漁」に属します。形は円錐形で底に「いわ」(おもり)又は鎖を付け、上部に手綱が付いています。この網は底の直径が二メートル三十センチ、丈も同じく二メートル三十センチあります。それに八メートルほどの手綱がついています。使用法は、手綱を押さえて、網の上端を持ち、魚のいる所をめぐって投げ広げます。いわの重さで網が円形に広がり、縁が急速に水中に沈んで底につきます。そこで網をゆっくりと引き上げると魚が網の中に閉じ込められます。水の深さは十メートルくらいまで、そして水底の平らな場所しか使用できません。川岸や海岸、船の上、橋の上から投げたりもします。漁師だけでなく、食料を得るため、また娯楽用品としても使用されていました。網を綺麗な円形に開くように投げるのが腕の見せ所です。

滝上も開拓時代は食料のたんぱく源をもっぱら川魚に頼っていました。うぐいややまめを投網で沢山とり、食べきれない分は焼干しにして保存食にしました。また秋には渚滑川に鮭や鱒が大量に上がってきました。八目つなぎも上がってきます。

開拓が進んで生活が落ち着いてくると投網漁は娯楽として親しまれるようになります。滝上町教育委員が発行の「ガラス乾板写真集」には、大勢で鍋を囲んで川遊びを楽しんでいる人達の写真が載っています。その中の一人はしっかりと身ごしらえをして投網を構え、誇らしげに納まっています。

※ 参考…古老談話ガラス乾板写真集(滝上町立図書館蔵)